

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第97号

令和1年10月8日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

9/22 扇谷、東京・奈良まほろば館で講演

皇居・楠木正成銅像、東大・朱舜水終焉地碑に

茨城県立歴史館に「正行像賛扇子」を寄贈！

● 首都圏の楠正行ファンにアピール ●

9月22日（日）午後5時から、奈良まほろば館（東京都中央区日本橋室町）で、南朝の歴史資産等所在市町村活性化許議会・奈良県主催の連続講演会第4回が開かれ、『今、四條畷で蘇る楠正行ワールド』と題して、扇谷が講師を務めました。

首都圏での講演会という事で、果たして多くの人にお集まりいただけるのかと不安でしたが、70人の定員に60人余りの方にご出席いただき、無事開催することができました。

講演内容は、南北朝時代の四條畷の地勢と四條畷の合戦、吉野生れの私と楠正行の運命的な出会いと弁内侍を含めた縁、数々の事跡や資料発見によって四條畷で蘇ってきた楠正行の世界、そして四條畷楠正行の会の活動を中心に次代に繋ぐ様々な顕彰活動等をお話しました。

しかし、東京にも、熱心な楠氏ファンや正行ファンが多数おられることを実感しました。

講演30分前にお越しいただいた方は、柏原市ご出身の方で、柏原市立壁下小学校横の公園内に建つ楠公父子「櫻井の訣別」の石像の写真を持参され、設置の事実・経緯等をご存知ですかとお尋ねでした。

扇谷は、かつて戦前には大阪府内の76の小学校に77体の大楠公像・小楠公像・父子訣別の像があったことを知っ

ていましたので、その旨をお伝えし、この柏原の石像にも触れた論文があり、その写しを後日お送りするお約束をしました。

「まいど！」と、講演前に声をかけて下さったのは、四條畷市観光大使の青木豊彦さんでした。たまたま東京にお越しになっていたとのことですが、わざわざ時間をつくって足を運んでいただき嬉しい限りです。

そして、講演終了後にも何人もの方から声をかけていただきました。

お母さんと娘さんの親子でご参加くださった一組は、「東京からも参加できる正行バスツアーはないのでしょうか。あれば、是非参加したい。」と嬉しいお話や、若い男性は「近々、生活の場所を大阪に移します。その節は勉強会の仲間に入れてください。」と、是も嬉しいお話でした。

何よりも感じたことは、ご参加の皆さんの中に若い方が多かったことです。そして、熱心に聞き入ってください、楠正行に関心をお持ちいただけたとしたら、大成果です。

話に熱が入り、講演時間をオーバーしてしまいましたが、お許しいただき、持参した「正行像賛扇子」や「くすのきまさつらかるた」も多くの方にご購入していただきました。

このように、遠く東京での正行顕彰の機会を与えていただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

↑写真：奈良まほろば館で講演する扇谷



● 正行ゆかりの地、2か所訪れる ●



この日、東京駅に降り立った扇谷は、真っ先に徒歩で皇居前広場の楠公銅像に向かいました。

中学校の修学旅行以来の皇居前広場で、記憶はすっかりなくなっていました。今から55年も前に同じ場所に立ったのかと思うと感慨深いものがありました。

楠木正成銅像は、バスターミナルに囲まれるように位置し、バスを降りた観光客（多くは外国人）は、恐らく楠木正成という武将の銅像という事を知らないまま記念写真に収まっているようでした。外国人も、日本人も、誰もが「楠木正成公の銅像の前で写真を撮ろう」と、知られる武将になればなあ、と強く感じさせられました。

その後、東京大学農学部構内にある朱舜水終焉の地碑を訪れました。

かつては農学部正門前にあったとのことですが、今は移され、農学部の敷地内の奥の方に建っていました。東大に学ぶ学生の多くが、この碑の存在を知らないままに卒業をしていくのだろうと感じました。

しかし、朱舜水作の正行像賛を発見した扇谷にとって、是非一度は訪ねたい場所でもあったので、今回の東京での講演は大変ありがたい機会となりました。

● 茨城県立歴史館にお礼と報告 ●

翌日、水戸まで足を延ばし、茨城県立歴史館を訪れました。

茨城県立歴史館は、扇谷が朱舜水の正行像賛発見のきっかけを作った論文を書かれた木下英明さんが主席研究員をしておられた所です。

木下さんのお陰で、朱舜水作の正行像賛を国立国会図書館関西館で見つけた扇谷は、その略解を試みるのですが、中国の歴史書や漢文に通じていないため、作業が困難を極

め、茨城県立歴史館を通じて木下英明さんの連絡先を教えていただき、懇切丁寧なご指導・ご助言を受けて初めて略解分を完成させることができました。

事前のアポなしにお伺いしましたが、受付で、事情をお話し、お礼とご報告にお伺いしましたとお伝えしたところ、快く参事・管理部長の市川浩之氏と、学芸課長・大津忠男氏が応接してくださいました。

持参した楠正行像賛をお渡しし、当時の思い

出話をさせていただき、水戸学の師、朱舜水の談義に花が咲くひと時でした。

大阪電気通信大学との産学連携事業で制作した「くすのきまさつらかるた」も寄贈したところ、学芸課長の大津氏は、「カルタによる歴史の顕彰は素晴らしい事業ですね。私どもも、子どもたちに向けた啓発は大きな課題です。」と、絵札・字札を見ながら、称賛していただきました。

その後、館内の常設展示を拝見し、帰りには貴重な「常設展示解説・茨城の歴史をさぐる」冊子を頂き、茨城県立歴史館を後にしました。

● 日本三大公園の一つ、水戸の偕楽園 ●

最後、歴史観とほぼ隣接する偕楽園を訪れました。偕楽園は、水戸藩「天保の改革」を断行した徳川斉昭が設けた庭園で、早春には約100品種、3000本の梅の花が見事に咲きほころぶ梅の名所として知られています。

この日、斉昭が意図したと云われる「陰と陽の世界」が堪能できるという、表門から入り、竹林、吐玉泉・大杉森を抜けて好文亭（木造二層三階建ての本体と木造平屋建ての奥御殿からなる建物）に向かい、三階から偕楽園全体の遠望を堪能しました。

この東京講演には、四條畷市から鈴木産業振興課長に同行していただきました。ありがとうございました。

（写真：左上 皇居前広場楠木正成銅像の前で、左下 東大農学部構内朱舜水先生終焉の地碑前で 右 茨城県立歴史館「常設展示解説茨城の歴史をさぐる」掲載朱舜水肖像画）

（文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭）

